

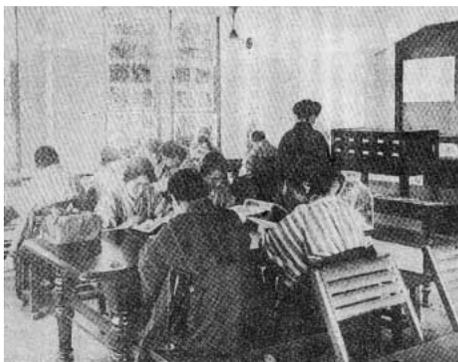


SINCE 1901 感謝と希望を
日本女子大学・創立100周年

図書館だより

目次

創業者成瀬仁蔵先生の読書論	出淵 敬子 1
「今、学生にすすめる本」特集(その8)	
本間 健	沖田富美子 2
小笠原小枝	三神 和子
高橋 智子	小山 高正 3
高橋 行徳	浅岡 守夫
これからの大学図書館がめざすもの	田中 功 4
図書館玄関ホール展示	
「桜楓の源流 桜の世界」	小川 靖彦 5
日本女子大学の図書館史に関する文献一覧	田口 令子 6
日本女子大学図書館友の会	
第36回(平成13年度)総会開催される	12



昭和2年頃の図書室内風景

創業者成瀬仁蔵先生の読書論

出淵 敬子

ゆりの木にチューリップのような花が見え隠れ、図書館の南隣には創立百周年記念館が真新しい偉容を現わした。本号は百周年記念特集である。創業者成瀬仁蔵先生は本や読書についてどのように考えていられたのだろうか。関係資料を隈なく調べたわけではないが、過日成瀬先生と服部他之助氏について調べたときに知ったことを紹介したい。「成瀬先生の追憶」という一文の中で服部氏は古い日記を辿りながら、成瀬先生が書籍や読書について話されたことを克明に記している。

時は大正五年七月のある夕べ、千駄ヶ谷の服部家で開かれた親族の会合に服部氏とは義兄弟でもある成瀬先生も招かれた。食後遅くまで「愉快に会談」された先生の話ののひとつは、本と読書についてであった。成瀬先生が大の読書家で、丸善や教文館から和書と洋書の新刊書をたくさん購入されていたことは、成瀬記念館などに保存されている多くの蔵書が示している。先生は読書によって知力、思考力を鍛え心豊かに生きることを重視されていた。「書物は私共の宝物蔵であるから、読書ということの多寡に依り、私共の心の貧富の差が決定される。読書をなさぬ人は、自然に頭脳が貧弱となり、人に後れをとり、澆刺たる元気ある思想の持ち主となることは到底不可能である。先生は愛書家で「なるべくは、自分が読む書籍は、悉く自分のものであることを望む」と話された。以前この欄に本を買って読むか借りて読むかを図書館の発達と関連させて書いたことがあるが、成瀬先生は断然前者で、その理由を「第一に借金でも為している心地がして、心易からず、第二に自分の書物でもないときには心覚えのため一寸の印を付する事も出来ず、非常に不便」と言われている。しかし一方で創立まもない頃より、先生は「婦人図書館」をつくることを構想されていた。

また読書の「心得」として先生はあらまし次のことをあげられた。(1)短い一生では時間が足りず、読みたい書物をすべて読むことはできないから「良書選択」が重要である。(2)「最も忌むべきことは読書を単なる自分の装飾を整う具」として、「あのひとは智者である」と世間から目されたがる「偽読書家」になることである。(3)読書の大目的は「著者の言葉で言い表している真理の実質を味う事に依り、自己の何たる物であり、自分は果たして現在如何なるレベルに置かれてあるかを発見する」ことである。つまり、著者が表現した真理を「自分の心に持って来て、自らを之れに照合して自省し、周到なる思索の結果、先ず自己の立場の了解に努めねばならぬ……著者が立っているところに読者が立たなければ、真実に著者の見ている真理を見ることが出来ぬ」と考えられた。読書をとおして人はまず己を知り、著者の説く真理の高みまで上っていかなければならないという読書に対する先生の激しい気迫と真摯な姿勢には心を打たれる。(図書館長・英文学科教授)

「今、学生にすすめる本」特集（その8）

本 間 健（食物学科教授）

北条民雄著 『いのちの初夜』 角川文庫 1955年

今ほど生命観あるいは健康観のゆらいでいる時代はない。ゲノム解読がもたらす影響の大きさは測り知れない。医学分野ではオーダーメイド治療も近く実現するだろう。このような時代だからこそ「いのち」について考え直すことは、どの分野に身を置いていても必要なことであろう。北条民雄は20才でハンセン病を発病し、24才腸結核で療養所内で死んだ。ハンセン病患者が療養所に隔離され人権侵害を受け続けたが、ようやく解決がみえてきた。そのような歴史を知らずとも、この本の呈示する「いのち」とは何か、生きるとはどういうことか、等の問いかけは、読む者を圧倒する。ハンセン病は末梢神経と皮膚が冒される。顔が原型をとどめなくなることもある。しかし、「どんな廃惨の肉体の中にも、美しい精神は育つ」（『癩院受胎』）のだと登場人物は語る。WHOの現行の健康の定義は果たして妥当か？WHOは現在、その定義に“spiritual”を加えるべく討議中である。

沖 田 富美子（住居学科教授）

本には何回取り組んでも、中々進まない本がありますが、今回は止まらない本を御紹介します。

井形慶子著 『古くて豊かなイギリスの家 便利で貧しい日本の家』 大和書房 2000年

19歳の時に初めて訪れたイギリスの街並みに魅せられ、40回目を越える渡英およびイギリスでの生活から得られた、イギリスと日本の住宅に対する考え方及び生活観のちがいを綴ったものです。一概にその良し悪しの判断をすることは不可能ですし、必ずしも日本に通用することでもありません。しかし、この本は日本の住宅や生活について振りかえるきっかけを与えてくれるのでは？

吉村作治著 『エジプトミイラ五〇〇〇年の謎』 講談社+ 新書 2000年

エジプトは、ピラミッド、王家の谷、アブシンベルの大神殿など次から次へと興味のつきない所です。特に5000年前の世界をミイラから解明していくその作業は、今日の科学技術の進歩（DNA、コンピュータグラフィックス）に負う所が大きいようです。しかしそれ以上に昔の技術の素晴らしさ及びくりひろげられた世界に感動する楽しい本です。またエジプトへの旅の夢が膨らみます。

小笠原 小 枝（被服学科教授）

米田雄介・木村法光著 『正倉院の謎を解く』 毎日新聞社 2001年

多少とも歴史や美術史に興味を抱いている方であれば、「正倉院宝物」に関心を持っているであろう。聖武天皇の御遺愛品をはじめとする各種の美術工芸品や文書が、1200年の時を越えて厳然と当時の姿をみせてくれるのが毎年秋の曝涼の時期なのである。こうした8世紀の多量の品々が伝世品として現存している例は、世界でも稀なことである。それだけに「正倉院宝物」に関する大型図録本や研究書の出版は数多い。しかし、ここにご紹介する新刊本は鑑賞用でも、また難解な研究書でもなく、平易な文章で記された入門書的な役割も果たす。しかし従来の研究を時に否定し、さらに新しい解明を加えて正倉院宝物の成立や保存の謎、工芸品の技術の謎を解き明かすなど、そこに「謎解き」の面白さが盛り込まれている。世はIT革命が喧伝されるなか、敢えて私はこの書から先人達が知恵を結集して、作品とその保存にかけた豊かな時間の流れを実感してもらいたいと思っている。

三 神 和 子（英文学科教授）

鹿野政直・堀場清子著 『祖母・母・娘の時代』 岩波ジュニア新書 1985年

20世紀は女性にたいする意識が大きく変化し、男女平等への道が大きく前進した時代でした。では、20世紀初頭の、そしてそれ以前の女性はどうのような存在であり、具体的に女性たちはどのように前進してきたのでしょうか？ ばくぜんとはわかっている、この質問に自信をもって答えられないとき、この本をお読みください。この本は明治維新から1980年代までの日本女性の足跡を解りやすく概説しています。近代日本の歴史の歩みのなかで女性たちが直面した現実と問題を広範囲にとりあげ、そのなかから立ち上がってきた主張や運動を具体的に説明しています。ジュニア版ですが、大学生や社会人も満足させる充実した内容で、なんととっても、読みやすいのです。近代日本の女性史を踏まえておくことは、現代人の基礎知識として、そして現代社会の諸問題や未来を考えるうえで、ぜひとも必要なことです。

高橋 智子 (日本文学科助教授)

三島由紀夫著 『近代能楽集』 新潮社 1956年, 新潮文庫 1968年

詩人が出会った九十九歳の醜い老婆は、その昔美女の誉れ高く小町と呼ばれていた女だった。詩人はいつの間にか、八十年前の鹿鳴館で若返った小町と恋を語っているが…。詩人と老婆の時空を超えた不思議な恋を描いた「卒塔婆小町」を始め、恋人に捨てられ気が狂ってしまった花子の物語「班女」、嫉妬に燃える生霊が恋人の妻葵をとり殺す「葵上」など、全八作の戯曲集。それぞれ能の原曲の構想を活かしつつも、舞台は現代化され、物語自体にも大幅な変更が加えられて、「近代能楽集」の名にふさわしいものとなっています。三島由紀夫と言えば、「仮面の告白」や「金閣寺」、「豊饒の海」など小説家としてのイメージが強いのですが、私個人としては、三島ワールドの最高傑作はこの「近代能楽集」だと思っています。三島の飛躍する想像力が、能という堅固な土台を得て、絶妙なバランスを保ちつつ繰り出される非在の物語たち。海外を含め、現在に至るまで上演され続け、人々を魅了し続ける作品です。

小山 高正 (心理学科教授)

ヤーコプ・フォン・ユクスキュル, ゲオルク・クリサート著 日高敏隆, 野田保之訳 『生物から見た世界』 思索社 1973年

ハエやイヌがどんなふうに世界を見ているのか、考えたことがありますか。フォン・ユクスキュルは、この本の中でさまざまな方法を駆使してそれを見せてくれます。彼が生まれたのは1864年のことです。ビデオやコンピュータがあったわけではありません。表現方法は写真がせいぜいだったのです。そんな中でも彼は、ハエやイヌが見ている世界を描いてみせます。ハエやイヌの世界はヒトよりシンプルですが、それは彼らが周囲からの情報を自分たちにあわせて取捨選択しているからです。つまり動物も漫然と暮らしているのではなく、彼らが環境に意味を与えることによって独自の「環境世界」を作っているのです。動物は、決して刺激 - 反応を繰り返すロボットではないとユクスキュルは考えました。皆さんはずいぶん多忙な毎日を送っているようですが、卒業後はさらに忙しい生活が待っています。ですから「いま」こんな古典を読んでみたらいかがでしょうか。

高橋 行徳 (文化学科教授)

クラッツ・カフカ著 『審判』 白水社 2001年

学生の皆さんにどんな本を推薦すればよいか苦慮しています。それは一個人の読書量に限界があるだけでなく、皆さんの様々な資質や能力を考えた場合、共通にお勧め出来る本など存在しないのではないかと考えるからです。しかし学生時代に感動して読んだ文学作品なら幾つか挙げる事が出来ます。そのような作品の一つに、上記の『審判』があります。私はこの作品を或る時は原書で、また或る時は翻訳で既に10回以上読んでいますが、未だに飽きがきません。その大きな理由は、カフカ文学は懐が深く、読者の小説への参入を容易に許してくれるからです。読者が能動的に作品と係わることによって、小説世界が拡大深化され、常に新たな発見の喜びを用意してくれるのです。私はおそらく一生、この小説と対話することになると思います。皆さんも生涯付き合える作品を、乱読が可能な大学時代に、是非探り当ててください。

浅岡 守夫 (物質生物科学科教授)

「化学」編集部編 『これはすごい! 化学の世界記録集』 化学同人 1999年

レイチェル・カーソン著, 青樹築一訳 『沈黙の春』 新潮文庫 1974年

私たちの身の周りではいつのまにかいろいろな形で化学の成果が活かされるようになっていく。医薬品の分野における貢献は言うには及ばず、航空機の接着剤などの従来のリベットにかかわることにより航空機の安全性を飛躍的に向上させている。前者では気軽にそのような最先端の輝かしい科学技術に触れることができる。一方で、科学の発展はその負の面も持ちあわせている。後者は、自然界における化学薬品の浸透、循環、蓄積の研究を通して自然破壊の危機を説いた先駆的女性研究者の書である。化学の分野のみに限らず、科学の発展は、一方では人類の幸福に多大に貢献し、他方では負の影響をもたらしてきた。いろいろな立場からの知識、知見を基に、広い視点からの科学技術の光と影を見つめる目を養う糧として、両極とも思える両書を推薦する次第である。

これからの大学図書館がめざすもの

田 中 功

1996年米国サンフランシスコでは「全米一の電子図書館」ともいうべき市立図書館がオープンした。館内には300台のインターネット端末が置かれている。利用者はそこから蔵書検索をはじめ、雑誌記事、新聞記事、学術雑誌論文など約60種の商用データベースが無料で検索でき、さらに約650種の雑誌については端末から全文記事も入手できる。図書館カードを持っていれば自宅からも、また世界中のどこからでもこの図書館にアクセスすることによって自由に使える。

こうしたインターネット、図書館ネットワークなどの革新によって、利用者が情報にアクセスする方法は根本的に変わりつつある。つまりインターネットと連動することによって図書館の使い方も変わってくる。図書館に足を運ばなくなった人もいるが、一方では、インターネットで図書館にアクセスするという新しい層が図書館を使い始めている。そして図書館は、印刷情報と電子情報の両方を効率的に提供するハイブリッド図書館の実現に向けて新たな展開をしている。

このサンフランシスコ市立図書館の例に見られるように、図書館が従来の印刷情報に止まらず電子情報まで提供する状況は、まさに図書館が巨大な情報館と化しつつあるといえよう。しかし一方では利用者が自分で情報を得る能力をもたなくてはならない社会を迎えている今、新たな問題も抱えてきている。情報ネットワークへのアクセスができる、できないが利用者により大きく異なり、そうした利用者の求める情報を主体的に選択、収集、活用するための能力つまり「情報力」ともいべき格差が拡大する傾向にあるという問題である。

このような状況に対して図書館が取り組むべき課題はこの格差をなくすこと。つまり図書館における「デジタルデバインド」の解消である。OPAC(オンライン目録)など図書館が時間と労力をかけて作成した図書館システムを利用者が十分に活用してくれないとしたらむなしいことである。このため図書館ではあらゆる努力でこの問題の解決に向けて対処していかなければならない。

たとえばカリフォルニア大学Berkeley校図書館では、2001年の春期3ヶ月の間に、学生、教員に対してオンライン目録、雑誌記事索引、インターネット、CD-ROMデータベースの使い方など、テーマごとの講座を総計36回(各回約2時間)という非常に多くの頻度で開催し、講座をとおして学生や教員の図書館システムの利用をサポートする。

今後、図書館の機能は資料の所蔵だけでなく情報アクセスの仲介の役割も新たに加わることになる。それに伴って従来のサービスと電子情報のサービスの間を媒介する図書館員の新しいサービスも必要とされるであろう。今後、学生の図書館に対する依存度が高まるにつれ、いま以上に図書館の質がそのまま大学の学術水準に反映されることになる。これからの大学図書館は急速な勢いで押し寄せつつあるこのような電子化への対応をはじめとする世界の図書館の新しい動きを理解しながら、将来にむけての構想を立てなければならない。

施設面に目を向ければアメリカ、ヨーロッパでは閲覧室の大きい滞在型の図書館が人気を集めているという。図書館でじっくり本と向き合うことを好む利用者も増えてきているようだ。本と電子情報の両方をうまく学生に提供するにあたっては、インターネット上の情報が不安だったらすぐに文献にあたるといったように、館内でインターネットに接続できる配線も今まで以上に設置しておくことが必要とされよう。また限りなく増え続けていく図書館資料の収納に対しては国立国会図書館関西館や明治大学、国際基督教大学などにみられる請求された資料を自動的にステーションに送り届けられる自動書庫システムの検討もなされるべきであろう。さらにはバリアフリー環境の実現など、図書館や社会の変化と発展に対応できる図書館づくりをめざしていかなければならない。

(図書館事務部長・日本文学科教授)

図書館玄関ホール展示「桜楓の源流 桜の世界」

小川 靖彦

本年3月12日(月)に開催された、2000年度学術交流研究(文学部企画)の「桜楓の源流 日本の美意識を遡及する」の一環として、本学図書館所蔵の桜に関する書物を、「桜楓の源流 桜の世界」と題して、3月8日(木)から5月22日(火)まで展示した。

展示は4つのセクションからなり、「1.桜のすがた」では、「寢覚物語絵巻」、山口雪溪「桜楓図」、三熊露香「桜花藪」など、桜を描いた作品を収める写真集や画集を展示した。

「2.桜の文学」では、桜をテーマとする、近代の文学作品を集めた。今回、このセクションでは、網野菊(英文学部卒)の小説集『さくらの花』(新潮社、1961。本書は日本女子大学校第四代校長井上秀氏への献本。著者の自筆署名あり)、ジャンヌ・グランジャンの短歌集で、田吹繁子(国文学部卒)の訳した『桜 フランス語歌集』(八雲叢書、新星書房、1959)、田村俊子(国文学部中退)の小説『紅』(「本門寺のさくら」を収める。桑弓堂の復刻版(ゆまに書房、2000))、塩井雨紅(元国文学部教授)・武島羽衣(元国文学部長)・大町桂月の詩文集『美文韻文 花紅葉』(博文館、1912(36版)。本書は国文学部第1回卒業生・元国文学教授の弘田由己氏寄贈本)など、本学ゆかりの文学者たちの、本学図書館所蔵の貴重な書物をまとめて紹介することとなった。これらの書物から、本学の卒業生や旧教員が、桜を通じて、近代日本の文学史に確かな足跡を残してきたことを窺うことができる。また、このセクションの書物は、画家である中川一政の随筆集『一月桜』(錦城出版社、1942)や石橋秀野の句集『桜濃く』(創元社、1949)をはじめ、小品ながら装丁が美しいものが多い(『一月桜』の装丁は中川自身)。装丁家たちの桜に対する深い思い入れを味わうことも、これらの書物の楽しみ方の一つであろう。

「3.桜の古典」では、平安末期を代表する歌人西行の『山家集』の写本(江戸前期から中期にかけての写。陽明文庫本系)、江戸時代の名所図会作家・読本作者・俳人の秋里離島の文、竹原春朝斎の絵による『都名所図会』(安永九年(1780)刊)を展示した。『山家集』は有名な「願はくは花のもとにて春死なむそのきさらぎの望月の頃」の歌を収め、『都名所図会』は祇園の桜の華やぎを描いている。あわせて、宝生流謡本「西行桜」「桜川」(わんや書店、1999)も展示した。

「4.桜のいのち」では、桜に関する近代の文化学的研究や植物学的研究の古典的著作である、山田孝雄『桜史』(桜書房、1941(初版)。本書は1942年発行の再版本)、三好学『桜』(富山房、1938(初版)、本書は1980年発行の復刻版)などを集めた。

展示の始まった頃、目白のキャンパスの桜が咲き初めた。今年は例年になく遅くまで雪が降り、雪



中の桜に多くの人々がはらはらさせられたのではなからうか。17点の書物からなるささやかなこの展示により、桜に惹かれてやまない私たちの心の不思議さの秘密に触れ、また桜を校章とする本学の伝統の厚みを改めて実感していただけたとするならば、この上なく幸いである(なおこの展示は本学図書館の全面的なご協力によって実現することができました。関係された方々に深く御礼申し上げます)。(日本文学科助教授)

日本女子大学の図書館史に関する文献一覧

日本女子大学図書館で所蔵している資料の中から、日本女子大学の図書館史に関する文献を調査し、文献一覧を作成。一覧の排列は、文献の発行年月日順。旧字体は、新字体に改めている。

【凡 例】

図 書 文献 No. 記事 ; 記事 『図書名』(発行年.月.日) p 記事 掲載ページ;
p 記事 掲載ページ * 编者コメント 注記

雑 誌 文献 No. 記事 [執筆者名]; 記事 [執筆者名] 「雑誌名」 No. (発行年.月.日)
p 記事 掲載ページ; p 記事 掲載ページ * 编者コメント 注記

1. 構内記事 開校式 「日本女子大学校 学報」 No.1 (1903 明 36.7.10) p160 ~ 163
* 日本女子大学開校式 明治 34 年 4 月 20 日 挙行
2. 豊明会の由来 森村市左衛門氏の談 「家庭週報」 No.14 (1904 明 37.12.31) p9 ~ 10
3. 更に記念すべき記念式 明治 38 年 4 月 20 日 第 5 回 日本女子大学校創立記念日に於て 「家庭週報」 No.22 (1905 明 38.4.29) p1 ~ 6 * 新設図書館定礎式の記事, 新設図書館の図面あり
4. 式日の新築豊明館 (写真) 「家庭週報」 No.57 (1906 明 39.4.21) p3 * 明治 39 年 4 月 11 日 豊明館 (図書館・講堂, 教育学部校舎) 等落成式ならびに開館式。
5. 美はしき団体 森村豊明会の高風 「家庭週報」 No.60 (1906 明 39.5.12) p1 ~ 4 * 日本女子大 新築豊明館を表側より見る (写真), 日本女子大学新築豊明館の一部図書館 (写真)
6. 本邦唯一の婦人図書館成らんとす; 桜楓バザーの趣旨 「家庭週報」 No.92 (1907 明 40.3.2) p1 ~ 2
7. 桜楓バザーの趣旨 「家庭週報」 No.93 (1907 明 40.3.16) p2
8. 桜楓バザー結了 「家庭週報」 No.96 (1907 明 40.4.27) p1
9. 大学拡張 (第二) 日本女子大学校長成瀬仁蔵氏談 「家庭週報」 No.152 (1908 明 41.8.1) p1
* 図書館・巡回図書館の記事あり
10. 図書館は特に婦人に必要あり [社会研究部] 「家庭週報」 No.190 (1909 明 42.6.25) p6
11. 団体的人格の価値 「家庭週報」 No.269 (1914 大 3.5.1) p1 * 4 月 22 日 午後 4 時 10 分 女子大学 大講堂出火記事; 天井を焼失したる日本女子大学校講堂 (写真)
12. 日本女子大学校敷地建物平面図 (図面) 「家庭週報」 No.620 (1921 大 10.7.8) p5
* 図面の教室 5 が図書館兼講堂
13. 大地震と私共の学校; 日本女子大学校の被害状況 「家庭週報」 No.724 (1923 大 12.10.5) p1 ~ 2 * 母校日本女子大学校の受けた災害は建物全部に及んでいるが, 其の内最も甚だしいのは豊明図書館 (講堂), 豊明館及び桜楓家政館の三棟で... (本文より抜粋)
14. 取壊しをはじめた豊明館 「家庭週報」 No.734 (1924 大 13.2.8) p2
15. 総合大学予科 (高等学部) 新館平面図一階 (図面) 「家庭週報」 No.889 (1927 昭 2.5.20) p5
* ホールより左に図書室の部屋あり (後の樟溪館の建物内)
16. 高等学部新館に開かれた図書室 「家庭週報」 No.890 (1927 昭 2.5.27) p7
17. 私達の図書室 (日本女子大学高等学部新館の一室) 「家庭週報」 No.892 (1927 昭 2.6.10) p8
* 閲覧室風景の写真あり 「図書館だより」 本号巻頭に転載
18. 日本女子大学校主催の御大典記念女性文化展覧会 「家庭週報」 No.928 (1928 昭 3.3.16) p1
* 展覧会の費用を出来得る限り倏約して, 入場料の収益を図書館費の一部へ加えたい。
(本文より抜粋)
19. 大典記念女性文化展覧会 「家庭週報」 No.933 (1928 昭 3.4.20) p4 ~ 6
20. 大典記念女性文化展覧会記録 (一) 日本女子大学校創立二十五年史料部 「家庭週報」 No.934 (1928 昭 3.4.27) p4 ~ 6
21. 大典記念女性文化展覧会記録 (二) 教育の部; 宗教部 「家庭週報」 No.935 (1928 昭 3.5.4) p4 ~ 6

22. 大典記念女性文化展覧会記録(三) 婦人と法制; 国際平和運動; 社会施設部; 欧米芸術部
「家庭週報」No.936(1928昭3.5.11) p4 ~ 7
23. 大典記念女性文化展覧会記録(四) 外国文学部; 本邦文芸部; 科学の部 「家庭週報」No.937
(1928昭3.5.18) p4 ~ 7
24. 大典記念女性文化展覧会記録(五) 婦人と経済 「家庭週報」No.938(1928昭3.5.25) p4 ~ 7
25. 紀元二千六百年を記念して『皇道文庫』を創設 「家庭週報」No.1460(1940昭15.2.15) p1
26. 『川田文庫』近く開庫式 「家庭週報」No.1507(1941昭16.4.25) p1
27. 婦人図書館設立桜楓会バザー; 創立二十五周年記念女性文化展覧会と皇后陛下の行啓; 図書館史
『日本女子大学四十年史』(1942昭17.4.20) p145 ~ 146; p227 ~ 230; p390 ~ 393
28. 図書館雑感 日本女子大学生の読書傾向 附属図書館長吉田賢次 「桜楓新報」No.5(1951昭
26.9.25) p3
29. 読書の習慣を手ばなしてはいけない 上代学長の実倫の一節から 「桜楓新報」No.115
(1961昭36.3.1) p1 * 図書館閲覧席の写真あり
30. 図書館めぐり 12(おわり) 本学園図書館の現状と将来 [篠崎茂穂] 「桜楓新報」No.136
(1962昭37.12.1) p2
31. 創立六十周年記念事業後援会の募金運動は継続推進 目的は大学図書館建設 「日本女子大学
学園ニュース」No.9(1962昭37.6.23) p1
32. 新図書館について 日本女子大学学長上代たの 「日本女子大学学園ニュース」No.11(1962昭
37.12.10) p1 ~ 2
33. 新図書館建設について 新図書館建築委員会委員長・本学理事松本重治 「日本女子大学学園ニ
ュース」No.12(1963昭38.3.1) p1
34. 画期的図書館建設[篠崎茂穂] 「桜楓新報」No.139(1963昭38.3.1) p2
35. 創立記念式 図書館定礎式 「桜楓新報」No.141(1963昭38.5.1) p4
36. 特集 第62回創立記念式新図書館定礎式 「日本女子大学学園ニュース」No.13(1963昭38.
5.25) p1 ~ 4
37. 成瀬先生生誕記念日に新図書館建設地鎮祭を行う 「桜楓新報」No.143(1963昭38.7.1) p2
38. 成瀬先生生誕記念日; 新図書館の地鎮祭 「日本女子大学学園ニュース」No.14(1963昭38.
7.10) p1
39. 進捗している新図書館の建築 「日本女子大学学園ニュース」No.15(1963昭38.10.10) p3
* 図書館模型(写真), 建築工事中の図書館(写真)
40. 着々進行中の図書館建築 「日本女子大学学園ニュース」No.16(1963昭38.12.15) p1
41. はじめに[篠崎茂穂] 「日本女子大学図書館だより」No.1(1964昭39.10.) p1
42. 創立60周年記念 新図書館開館式 「桜楓新報」No.155(1964昭39.7.1) p1
43. 特集号 図書館の開館式挙行さる 昭和39年6月23日成瀬先生生誕記念日に 「日本女子大学学
園ニュース」No.19(1964昭39.7.10) p1 ~ 4 * 竣工した図書館ほか(写真10枚)
44. 図書館を精神と知性の場に ファース博士のことばから 「桜楓新報」No.157(1964昭39.
9.1) p1
45. 新入生に寄せて 運営委員長大原恭子 「日本女子大学図書館だより」No.5(1965昭40.5.) p1
46. 日本女子大学図書館友の会設立 図書館は大学の心臓部; 一年ののち[相馬文子] 「桜楓新報」
No.167(1965昭40.7.1) p1; p1
47. 日本女子大学図書館友の会設立さる 「日本女子大学学園ニュース」No.24(1965昭40.7.12) p2
48. 日本女子大学図書館友の会規約 「桜楓新報」No.168(1965昭40.8.1) p2
49. 四十一年度図書館友の会総会 「桜楓新報」No.179(1966昭41.7.1) p2
50. 図書館友の会のこと[上代たの]; 総会の記 「日本女子大学図書館友の会会報」No.1(1966昭41.10.)
p1; p5 ~ 6

51. 図書館の窓から 32 英 春木千枝子 「桜楓新報」No.194 (1967 昭 42.10.1) p3
52. 新図書館の開館式と六十周年記念諸事業の完成; 近代的大学図書館の定礎; 第七章 新図書館の開館式と創立六〇周年記念事業の完成 『日本女子大学学園史 二』(1968 昭 43.6.23) p419; p463 ~ 470 : p501 ~ 520
53. 教養特別講義・芸術コース 文芸についての心得 図書館長西脇順三郎氏の講演より; 野村はな氏逝去 「桜楓新報」No.210 (1969 昭 44.2.1) p2 ; p2
54. 野村はな姉を憶う 7 英 上代たの 「桜楓新報」No.213 (1969 昭 44.5.1) p6
55. ジャーナリスト講座 仕事に誇りをもって 図書館友の会主催 「桜楓新報」No.229 (1970 昭 45.9.1) p2
56. 図書館新築前後(その 1)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.18 (1970 昭 45.9.20) p3
57. 図書館新築前後(その 2)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.19 (1970 昭 45.12.10) p3
58. 図書館新築前後(その 3)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.20 (1971 昭 46.2.10) p3
59. 図書館新築前後(その 4)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.21 (1971 昭 46.5.10) p3
60. 図書館新築前後(その 5)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.22 (1971 昭 46.9.20) p3 ~ 4
61. 図書館新築前後(その 6)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.23 (1971 昭 46.12.20) p3
62. 日本女子大学創立七十周年記念式典盛大に挙行さる 「桜楓新報」No.245 (1972 昭 47.1.1) p1 ~ 2
63. 図書館新築前後(その 7)[相馬文子]『日本女子大学図書館だより』No.24 (1972 昭 47.3.20) p3 ~ 4
64. A 上代タノ平和文庫の設置 「学事報告」昭和 46 年度 (1972.5.) p3
* 上代タノ平和文庫を本学図書館内に設置 (昭和 46 年 11 月 30 日)
65. 図書館増・改築工事始まる 「桜楓新報」No.253 (1972 昭 47.9.1) p2 * 工事中の写真あり
66. 図書館のあゆみ その一 (日本女子大学図書館のこと)[相馬文子] 「日本女子大学図書館だより」No.26 (1972 昭 47.9.20) p4
67. 図書館のあゆみ その二 (日本女子大学図書館のこと)[相馬文子] 「日本女子大学図書館だより」No.27 (1972 昭 47.12.20) p3 ~ 4
68. 七十年館新築工事着工 1 月 24 日地鎮祭行なわれる; 図書館の新・改築完成 「桜楓新報」No.258 (1973 昭 48.2.1) p1
69. 創立 70 周年記念事業進捗 図書館増築完成 「日本女子大学学園ニュース」No.46 (1973 昭 48.3.1) p1
70. 図書館増築工事完成 「日本女子大学図書館だより」No.28 (1973 昭 48.3.1) p4
71. 図書館のあゆみ その三 (豊明図書館のこと)[相馬文子] 「日本女子大学図書館だより」No.29 (1973 昭 48.5.20) p4
72. 増築特集号 「日本女子大学図書館だより」No.30 (1973 昭 48.10.20) p1 ~ 14
73. グループめぐり 日本女子大学図書館友の会 36 英 北野美枝子 「桜楓新報」No.275 (1974 昭 49.7.1) p3
74. 図書館のあゆみ その四 (中央図書館のこと)[相馬文子] 「日本女子大学図書館だより」No.31 (1974 昭 49.10.30) p3 ~ 4
75. 上代平和文庫について 「日本女子大学図書館だより」No.32 (1975 昭 50.6.30) p6
76. 創立 70 周年記念事業報告 建物関係図書館の増築 「日本女子大学学園ニュース」No.52 付録 (1975 昭 50.10.30) p1
77. 閲覧統計より見た図書館利用の変遷 「日本女子大学図書館だより」No.36 (1977 昭 52.6.20) p9 ~ 12 * 昭和 39 年度 ~ 昭和 49 年度の利用の変遷
78. 図書館友の会昭和 53 年度活動報告 「日本女子大学図書館だより」No.40 (1979 昭 54.3.20) p3
79. 日本女子大学発行逐次刊行物所蔵一覧 1980 年 2 月現在; 図書館友の会昭和 54 年度活動報告

- 「日本女子大学図書館だより」No.42 (1980 昭 55.3.20) p6 ~ 7 ; p8
80. 『日本女子大学 成瀬文庫目録』 発刊 (1979年11月10日) 「学事報告」昭和54年度 (1980.5.) p183
 81. お礼とお願い 図書館友の会総会あいさつ 会長上代タノ 「日本女子大学図書館友の会会報」No.38 (1981 昭 56.6.) p3
 82. 各回生とその記念樹 『図説 日本女子大学の八十年』(1981 昭 56.11.16) p37
* そてつ 5 回生植樹, 図書館の守護神のように, たくましく常盤の葉をひろげる。(写真説明文より抜粋)
 83. 女性文化展覧会開催 『図説 日本女子大学の八十年』(1981 昭 56.11.16) p86 ~ 88
* 昭和3年4月20日~30日, 女性文化展が開かれた。図書館建設費の一助にと, 入場は有料50 銭。入場者は3 万余人。(写真説明文より抜粋)
 84. 学園体制の刷新と拡充 『図説 日本女子大学の八十年』(1981 昭 56.11.16) p134 ~ 137
* 全館開架式の新形式の図書館となっており, 学生の勉学を促進する, 現在でも注目すべき大学図書館として機能している。(本文より抜粋)
 85. 卒業生著作目録の刊行に寄せる 学長青木生子 「日本女子大学図書館友の会会報」No.39 (1981 昭 56.12.) p1
 86. 「日本女子大学卒業生著作目録について」45 国 熊坂敦子 「桜楓新報」No.365 (1982 昭 57.1.10) p3
 - 87.No.50 記念特集号 「日本女子大学図書館だより」No.50 (1982 昭 57.2.1) p1 ~ 16
* 大学生活と図書館[青木生子], 上代タノ先生インタビュー, 50 号によせて[歴代館長], 日本女子大学図書館略年表(1901.4.20 ~ 1981.11.16), 日本女子大学編集・発行図書所蔵一覧, 『図説 日本女子大学の八十年』について[相馬文子]などを掲載
 88. 「卒業生著作目録」の新版発行 図書館友の会が創立 80 周年記念に[北野美枝子] 「日本女子大学学園ニュース」No.76 (1982 昭 57.2.10) p1
 89. 平和と女子教育に生涯を捧げられた故上代タノ先生大学葬 「桜楓新報」No.370 (1982 昭 57.6.10) p1 ~ 4
 90. 上代先生追悼号 「日本女子大学図書館だより」No.52 (1982 昭 57.6.23) p1 ~ 5
 91. 上代たの先生追悼号 「日本女子大学図書館友の会会報」No.41 付録 (1982 昭 57.7.) p1 ~ 14
 92. 日本女子大学図書館友の会主催 上代タノ先生追悼会 於国際文化会館 ; 図書館友の会昭和58 年度総会 「桜楓新報」No.383 (1983 昭 58.7.10) p4 ; p4
 93. 故上代タノ先生大学葬 「日本女子大学学園ニュース」No.77 (1982 昭 57.8.16) p6 ~ 8
 94. 『上代たの文集』の編集 裏方の弁 [新井 明] 「日本女子大学図書館友の会会報」No.46 (1984 昭 57.2.) p1 ~ 3
 95. 図書館開館 20 周年記念特集号 「日本女子大学図書館だより」No.61 (1984 昭 59.10.18) p1 ~ 16
* 図書館, この20 年, そして[青山吉信], 座談会・図書館のこれからなどを掲載。
付録 : 日本女子大学図書館だより執筆者索引
 96. 統計で見る図書館の歩み 「日本女子大学図書館だより」No.62 (1985 昭 60.3.15) p2 ~ 6
* 昭和41 年度~昭和58 年度の統計
 97. シリーズ・平和文庫の窓 (1) 上代タノ平和文庫の「戦争体験記」[一番ヶ瀬康子] 「日本女子大学図書館だより」No.67 (1986 昭 61.10.31) p4
 98. シリーズ・平和文庫の窓 (2) 上代平和文庫異色の3 冊[福田陸太郎] 「日本女子大学図書館だより」No.68 (1987 昭 62.3.31) p4
 99. 森戸文庫のこと[上村美紗子]; シリーズ・平和文庫の窓 (3) 平和と安全保障について[磯野富士子] 「日本女子大学図書館だより」No.69 (1987 昭 62.6.23) p3 ; p4
 100. 日本女子大学図書館友の会第22 回総会開催 「日本女子大学学園ニュース」No.95 (1987 昭 62.7.15) p8

101. シリーズ・平和文庫の窓(4) アジアと日本[林 のぶ] 「日本女子大学図書館だより」
No.70 (1987 昭 62.12.15) p4
102. シリーズ・平和文庫の窓(5) 平和文庫と図書館[矢部俊子] 「日本女子大学図書館だより」
No.71 (1988 昭 63.3.10) p3
103. 母校の素顔 図書館 「桜楓新報」No.443 (1988 昭 63.7.10) p2 *徳末愛子館長
104. 日本女子大学図書館友の会第24回(平成元年度)総会開催される 「日本女子大学学園ニュース」No.103 (1989 平元.7.15) p2
105. 日本女子大学図書館システム JWULIS 特集号 「日本女子大学図書館だより」No.76
(1989 平元.11.20) p1 ~ 4 * JWULIS 元年 21世紀への第一歩[徳末愛子],
1989.10.16 JWULIS システム始動式, 機械貸出開始
106. 大学図書館コンピュータ・システム JWULIS 一部運用を開始 「日本女子大学学園ニュース」No.104 (1989 平元.11.25) p5
107. 平成二年四月開設西生田図書館の概要について[上村美紗子] 「日本女子大学図書館だより」
No.77 (1990 平 2.3.1) p2 ~ 4
108. 西生田図書館特集号 「日本女子大学図書館だより」No.78 (1990 平 2.6.2) p1 ~ 8
* 学生の青春の原点となることを[青木生子], 西生田に思う[斎藤寛治郎], 西生田図書館への期待
と夢[一番ヶ瀬康子], 新西生田図書館の写真などを掲載
109. 人間社会学部開学式挙行 将来計画への第一歩を踏み出す 「日本女子大学学園ニュース」No.
107 (1990 平 2.7.30) p1 ~ 3
110. 日本女子大学図書館だより執筆者索引(第1号 - 第80号) 「日本女子大学図書館だより」
No.80 付録 (1991 平 3.3.1) 7p
111. 創立90周年記念式挙行 「日本女子大学学園ニュース」No.111 (1991 平 3.6.10) p1 ~ 5
112. 図書館友の会をご存知ですか 「日本女子大学学園ニュース」No.117 (1992 平 4.7.10) p15
113. 図書館友の会のご案内 「日本女子大学学園ニュース」No.123 (1993 平 5.7.10) p4
114. 日本女子大学上代タノ平和文庫目録 1991 「日本女子大学図書館だより」No.87 (1993 平 5.
6.23) p6
115. 現図書館開館30周年記念特集号 「日本女子大学図書館だより」No.90 (1994 平 6.6.23) p1 ~ 32
* 図書館開館30周年にあたって[宮本美沙子], 「図書原簿」~ 現図書館三十周年にあたって~
[石川松太郎], 歴代図書館長座談会, 日本女子大学図書館関係略年表(1980.4 ~ 1994.3), 統計で見
る図書館の歩み(昭和41年度~平成5年度)などを掲載
116. 現図書館開館30周年記念特集号 「日本女子大学図書館だより」No.91 (1995 平 7.1.20)
p1 ~ 46 * 目白図書館に思うこと[斎藤寛治郎], 現図書館開館30周年記念講演会・シンポジ
ウム『夢のある図書館づくり』を掲載
117. 日本女子大学図書館友の会第29回総会開催 「日本女子大学学園ニュース」No.129 (1994 平 6.
7.15) p3
118. 開かれた大学図書館 本学図書館の創設前後 [石川松太郎] 「日本女子大学図書館友の会
会報」No.79 (1995 平 7.3.) p1 ~ 3
119. 日本女子大学図書館友の会について 「日本女子大学図書館だより」No.95 (1996 平 8.3.15) p7
120. 『日本女子大学図書館蔵森戸文庫目録(稿)』について 「日本女子大学図書館だより」 No.96
(1996 平 8.6.23) p8
121. 日本女子大学図書館ホームページを開設 目で見るホームページ 「日本女子大学図書館だより」
No.97 (1996 平 8.12.10) p5 ~ 7
122. 日本女子大学ホームページを開設 図書館ホームページも 「日本女子大学学園ニュース」
No.144 (1997 平 9.2.15) p6
123. 成瀬仁蔵先生と図書館[中嶋 邦] 「日本女子大学図書館だより」No.98 (1997 平 9.3.10) p2
124. No.100 記念特集号 「日本女子大学図書館だより」No.100 (1997 平 9.12.1) p1 ~ 20

- * 図書館だより 100号によせて[宮本美沙子], 『上代たの文集』の成立について[新井 明], 上代先生追想 石川ムメ氏にきく[水嶋寿恵], 図書館だよりNo.1(1964) No.100(1997)「巻頭言一覧」「巻頭カット一覧」, 歴代館長随想, 館員メッセージなどを掲載
125. 図書館友の会発行『日本女子大学卒業生著作目録』について[藤岡恵實子]「日本女子大学図書館だより」No.101(1998平10.3.10)p5
126. 前常任理事ご挨拶(抜粋)[北野美枝子]; 新常任理事ご挨拶(要旨)[飯塚美子]「日本女子大学図書館友の会会報」No.89(1998平10.7.)p7;p7
127. 成瀬記念講堂に関する研究 成瀬仁蔵の構想 その実現と変遷 住居学科教授後藤久氏「桜楓新報」No.564(1999平11.3.10)p2
128. 成瀬先生告別講演記念瞑想会(講演)「成瀬記念講堂に関する研究 成瀬仁蔵の構想 その実現と変遷[後藤 久]「日本女子大学学園ニュース」No.157(1999平11.4.15)p6~7
129. 日本女子大学成瀬記念講堂に関する研究[後藤 久(研究代表者)ほか]「日本女子大学総合研究所紀要」No.2(1999平11.11.1)p125~187
130. 母校とともに桜楓の人 野村はな(7教2)「桜楓新報」No.574(2000平12.2.10)p2
131. 西生田図書館10周年「日本女子大学図書館だより」No.109(2000平12.11.25)p4~11
* 西生田図書館開館十周年を迎えて[出淵敬子], 西生田図書館の10年[永富尚子]付:1990(平成2)年度~1999(平成11)年度の統計, 日本女子大学西生田図書館関係略年表(1989.4~2000.9), いまの西生田図書館の写真などを掲載
132. 森戸辰男文庫のこと[上村美紗子]「成瀬記念館」2000No.16(2000平12.12.25)p12~14

日本女子大学は本年創立100周年を迎え, 図書館の100年の歴史をたどってみることになった。最初100年間の図書館年表作成を試みたが, 既に図書館だよりに掲載されている図書館略年表1901.4.20~1981.11.16 前記文献No.87 1980.4~1994.3 文献No.115 西生田図書館関係略年表(1989.4~2000.9) 文献No.131 と内容が重複することになるので, 年表作成の典拠となる文献の一覧を作成することにした。

1906(明治39)年本学に初めての図書館が建設され, 4月11日その落成式ならびに開館式が挙行された。講堂および教育学部校舎と併設の豊明館は, 森村豊明会の寄贈によるものであった。階下は講堂として使用, 階上に書架及び閲覧室を設置。1914(大正3)年4月22日講堂屋上から出火, 多数の書籍が水浸しとなり被害甚大。1923(大正12)年9月1日関東大震災。教育館, 家政館と共に豊明図書館も崩壊し, 修築の見込み立たず, 正門左側の国文館内の階下三室を図書室として使用した。1927(昭和2)年5月総合大学予科(高等学部)新館の建物内(後の樟溪館)に図書館を移転。機構を拡大し, 書庫, 事務室, 閲覧室等を設けて中央図書館と称す。1944(昭和19)年8月豊明学童が軽井沢に集団疎開, 図書資料も軽井沢三泉寮へ疎開する。1945(昭和20)年終戦と共に, 疎開図書も復帰する。1948(昭和23)年6月旧雨天体操場跡に図書閲覧室新築に着手し, 1949(昭和24)年1月に木造の図書閲覧室落成式が行われた。1958(昭和33)年9月図書閲覧室改装・増築, 一部開架方式を実施。英文学科閲覧室を泉山館より移転し, 樟溪館階段教室を改装した場所におく。

1963(昭和38)年4月22日第62回創立記念式にひきつづき新図書館定礎式が行われた。1964(39)年6月23日に創立60周年記念新図書館開館式が挙行される。正面玄関に「VERITAS VIA VITAE」の標語。1973(昭和48)年1月図書館増築工事終了。目白の現図書館は, 建物の修繕・リフォームを続けて, 本年開館37周年を迎えている。1990(平成2)年4月西生田に人間社会学部開設と共に, 西生田図書館が開館。本年度で開館11周年となる。西生田図書館開館と同時に, 日本女子大学図書館情報システム(JWULIS)を導入して, 目白・西生田キャンパス間のネットワークを構築した。目白・西生田図書館間の相互利用(図書・雑誌の取り寄せ)は, 年々増加の一途をたどっている。

「日本女子大学の図書館史に関する文献一覧」を作成するにあたっては, この他にも重要事項等がもれていると思われる。本学図書館で所蔵資料の中でも, まだ未調査のものもある。何かお気付きのことがありましたらお寄せください。(編集: 田口令子)

日本女子大学図書館友の会第36回(平成13年度)総会開催される

図書館の建物の5階に、日本女子大学図書館友の会の事務室がある。友の会は日本女子大学図書館及び成瀬記念館の充実発展に寄与することを目的としている。目白の現図書館開館一年後の1965(昭和40)年6月23日(創立者成瀬仁蔵先生の生誕記念日)に、本学第6代学長上代タノ先生の提唱により創設された。会員は本学教職員、卒業生、在学生や父母その他で組織され、会員数は現在527名。今年6月で36周年を迎え、去る5月12日(土)午



挨拶される学長後藤祥子先生

後図書館5階会議室において、図書館友の会第36回(平成13年度)総会が開催された。

友の会役員でもある石山常子氏の司会により午後1時に開会し、会員約40名が出席して進められた。最初に前友の会会長・学長宮本美沙子先生の挨拶があり、この3月で8年間務められた理事長・学長の任期を終えたことの謝辞と、本学の100周年記念行事に向けて更なる支援を請われた。続いて新友の会会長・学長後藤祥子先生が挨拶に立たれ、就任にあたっての抱負を述べられ、友の会のますますの発展を祈られた。引き続いて図書館長出淵敬子先生の挨拶があり、文学部が百年館に移転後に、改修工事をして図書館として使用する計画などを報告された。

総会の議長に玉置好子氏が選出され、議事に入った。平成12年度事業報告の中で、事業一般報告を阪田香公子氏、上代タノ平和文庫報告を松本晴子氏、卒業生著作調査報告を藤岡恵實子氏が報告された。事業一般報告としては、「源氏物語」他6コースの講座・講演会を開催、「熊野古道を訪ねる」等の研修会を実施、友の会会報を年3回発行などの報告がなされた。上代タノ平和文庫は、図書館4階にあり図書の貸出もできる。平成12年度は約30万円・135冊の平和文庫が選書・購入された。友の会編集の『日本女子大学卒業生著作目録』は、平成9年に改訂増補版が発行され、今回は追補となっている。会計担当の玉木照子氏による平成12年度決算報告の後、監事原田光枝氏の監査報告があり、決算も拍手で承認された。平成13年度事業計画案説明および予算案説明が、常任理事飯塚美子氏によってなされ承認された。議事の最後に、8年間友の会会長を務められた前学長宮本美沙子先生に、友の会副会長徳末愛子先生よりお礼の言葉が述べられ、友の会より感謝の花束が贈られた。この後図書館の上村美紗子情報受入課長により、友の会の図書館への図書購入費援助や日頃の協力について感謝の意が表明され、資料に基づいて詳細な平成12年度図書館報告がなされた。司会者石山常子氏の閉会の辞があり、総会は閉会となる。

休憩・歓談の後、榎島みどり氏(新制25回理2卒)の講演「植物のある暮らし ハーブとスパイス、ガーデン、景観デザイン」がなされた。榎島みどり氏は、環境プランナーとして活躍しておられる。持参されたハーブ・スパイス・エッセンシャル油が回覧され、ご自分でデザインされたガーデンのスライドを写しながらの興味深いお話を伺った。生活に密着した講演であり、最後に出席者から講演者へ質問が続出、予定の時間を大幅に延長して盛況のうちに終えた。(田口記)

編集後記 2001年本学は百周年を迎えています。図書館の歴史をたどって、文献一覧を作成してみました。本号の巻頭の写真は、桜楓会発行「家庭週報」第892号(昭和2年6月)より転載させていただきました。(田口)